



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第二〇〇号）

せいめい
清明

四月五日

神宮司庁造営局

伊勢神宮の神宮司庁の玄関にかけられていた「神宮式年造営庁」の看板が三月三十一日にはずされました。

「神宮式年造営庁」は、天皇陛下より第六十二回神宮式年遷宮の準備のご発意をいただき、今から十年前の平成十七年一月一日に遷宮のさまざまな準備のための機関として神宮司庁内に発足しました。この機関が中心となって、神さまの社殿造営や、社殿の内外を飾る御装束神宝の調製などを進めてきたのです。

それが、三月に行われた外宮の別宮、風宮の遷宮をもって今回の式年遷宮の儀式をすべて滞りなくおえて、三月三十一日で神宮式年造営庁が閉庁されたためです。

看板も風雨を受けて、十年という長い歳月を感じさせました。私は遷宮行事が連日続いたときには、毎日ように神宮司庁へ行きました。「幾度この看板を見たことか」記念にと看板を写真におさめました。

そして、四月一日より、次の第六十三回式年遷宮を見据えた組織として、神宮司庁内に新たに「造営局」が設置されたのです。ここでは早くも社殿の造営や御装束神宝調製などの準備を執り進めていきます。

そして、造営はさらに神域外の摂社、末社に取り掛かります。知り合いの宮大工の言葉が思い出されました。

「神宮の唯一神明造は、摂末社の修繕や修造で身につくもの」。正宮の造営よりも少人数で取り組む摂末社の修造は、先輩から若手に技術が伝承される機会なのです。若手はじっくりと神宮の建築様式の作り方を仕込まれ、次回の遷宮時には棟梁となって造営に腕をふるうこととなります。

この「暮らしのぞき箱」も今回で二〇〇回。気持ちも新たに書きつづっていきます。

文 千種清美

